

はじめに

近年、高等学校での英語の授業はもちろん、大学入試においてもコミュニケーション力がより重要視されてきています。センター試験にはリスニングテストが導入され、口語、会話表現はますます重要になってきました。

本書には、次の特徴があります。

① 豊富なデータから 200 の最重要表現を絞り込む

過去の大学入試問題（センター試験、私立大学・国公立大学の筆記テストとリスニングテスト）を幅広く分析し、複数回出題されてきた重要な表現を選び出しました。特に、センター試験問題に関しては最初の 1990 年の本試験問題から追試問題を含めてすべてを分析しています。その過程で、出題頻度の低いものは削除し、最終的に 200 の表現に絞り込みました。すべて最重要表現と言っても過言ではありません。したがって、本書はセンター試験をはじめ、大学入試直前に、重要な事項を確認するのに最適な問題集といえます。

② 大学入試筆記テスト・リスニングテスト両方に対応

本書は、特にセンター試験（筆記）の「会話表現」で高得点を目指すことに重点を置いています。加えて、リスニングテスト（特にセンター試験）の十分な対策本になることも考慮されています。そのために、リスニングテストの聞き取り文や問題文を分析し、そこに使用されている表現を多く採用しました。

③ 3 段構成の問題演習で確実に身につく

誰もそれほどすぐれた記憶力を持っているわけではありません。したがって、一生懸命に問題集をやっても、やった端から忘れてしまい、「一通りやったのに頭の中にあまり残っていない！」という声をよく耳にします。その問題を解決するために、本書は「自己診断」⇒「問題演習」⇒「復習」と 3 段構成で学習することで、重要事項を忘れにくくする工夫がなされています。

④ コミュニケーションに役立つ — 使える英語の情報がいっぱい

口語、会話表現は本来大学入試の基礎固めとしてはもとより、人と人とのコミュニケーションを円滑に図る上で重要であり、皆さんが将来外国人の人たちとコミュニケーションをとる際にも大いに役立ちます。そのため、入試問題の中からできるだけナチュラルな例文を選び、「予想問題」としている英文は今後の出題が予想されるもので本書だけのために書かれたものです。また、すべての英文校正は、応用言語学と英語教育学が専門の Dr. Sue Fraser が行い、複数のネイティブスピーカー（アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド）からも貴重な情報をいただきました。

最後に、この場をお借りし本書作成にかかわったすべての方々に謝意を表します。

編著者

CONTENTS

自己診断！ 頻出会話表現チェックリスト	6
UNIT 1 会話に用いる頻出表現 PART 1	16
UNIT 2 会話に用いる頻出表現 PART 2	22
UNIT 1 2 確認テスト	28
UNIT 3 自分の意思を伝える	30
UNIT 4 相手に質問する	36
UNIT 3 4 確認テスト	42
UNIT 5 電話で話す	44
UNIT 6 食事・買い物・交通	50
UNIT 5 6 確認テスト	56
UNIT 7 時や場所を表す表現	58
UNIT 8 感情・身体に関する表現	64
UNIT 7 8 確認テスト	70
UNIT 9 会話に用いる語法・熟語 PART 1	72
UNIT 10 会話に用いる語法・熟語 PART 2	78
UNIT 9 10 確認テスト	84
UNIT 1 ~ 10 確認テスト解答	86

本書の効果的な使い方

本書は3段階の学習によって重要事項が記憶しやすいような構成になっています。

① 自己診断 ⇒ ② 問題演習 ⇒ ③ 確認テスト と進めていくことをおすすめします。

① 自己診断

問題に取り組む前に、本書が選んだ200の重要表現に目を通し、それぞれの文の意味がわかるかどうかをチェックしておきます。知っているもの、知らないもの、何となく覚えているものなどに分けられますので、チェック欄に印をつけておきます。問題を解くのに比べてやさしいと感じるかもしれませんが、確実に重要表現を記憶しているとは限りません。次の問題演習でそれらを使えるようにします。

② 問題演習

実際に問題に挑戦します。すべて四択問題です。選択肢が紛らわしいなど簡単に答えの出ない問題もあるかもしれませんが、実際に問題を解き答えをチェックしていくことで、理解をより確実にしていきます。答えは選択肢の中に用意されていますが、選択肢を見なくても正答が出るまで学習してください。後半では、少し長めの会話形式の問題をとおして、重要な口語、会話表現を学びます。コンテキスト(文脈)がありますので、その口語、会話表現がどのような状況で使われるのかにも注意を払いましょう。そうすることで重要表現が身につき、実際に使えるようになります。

③ 確認テスト

5回の「確認テスト」を用意しました。2 UNITごとに、学習した重要表現を別の文脈の中で確認することで、どの程度身についているかわかりますので、結果がよければ先へ進み、悪かった時には、戻って再学習することをすすめます。次へ進むべき目安はおおよそ70%くらいの正解率です。それに達しなければ、先へ進む前にもう一度復習するとよいでしょう。ただし各自の実力に応じて、たとえば英語を得意とする人は、より高く目標を設定するとよいでしょう。